

<参考 2>

運動遊びが子供の脳とからだを鍛える

楽しく熱中すれば自ら育つ

安田メソッド(安田式遊具とその指導法)で幼児教育にエールを送りたい。

公益財団法人外あそび体育遊具協会 理事長 吉川静雄氏著(ミネルヴァ書房発刊)

令和2年11月20日(金)、森信三氏の立腰教育を実践している福岡市仁愛保育園の初代園長石橋富知子氏のご紹介で公益財団法人外あそび体育遊具協会 理事長 吉川静雄氏(エール株式会社会長、滋賀県大津市)を訪問し、吉川静雄氏と安田式遊具の開発者安田祐治先生との出会い、安田式遊具の哲学をお伺いしました。安田祐治先生は、「遊びは「楽しい事に熱中する」人類の本能である。自分のやり方で工夫し乍ら動作・行動して、やり遂げた満足感を得るものである。自らの発意で目標に向かい苦労と努力を重ねていく生涯の生き方を、夢中になって行う楽しい活動の中で自然に身につける重要な生活である。また、大勢と一緒に力を合わせて喜ぶ心や習慣も育つのである。然し近年の子供たちは此の大切さを無視して育てられている」と述べられております。三つ子の魂で共通点がありますので、以下ご紹介します。

はしがき

安田式遊具を導入している保育園・幼稚園(認定こども園を含む)は、今や全国で3000カ園以上にのぼります。その数が多いのか客観的に判断できませんが、この遊具を導入した園から園へと口コミで広がっていったこと私は大いに勇気づけてくれました。

というのも、安田式遊具は子供たちが実際に遊ぶ姿を見ることには、その素晴らしさが理解しにくいからです。安田式遊具の導入を検討している園長先生は実際の姿を見て感動し、安田式指導法という指導方もあることを理解されたうえで導入を決断しています。感動と納得、人ととのつながりが安田式遊具を広めてくれたのです。

おかげで安田式遊具の存在そのものは、幼児教育関係者のなかでは随分知られるようになりましたが、私はいま、この遊具の素晴らしさと価値を、より広く一般の人々にも知っていただきたいと念願しています。なぜなら安田式遊具とその指導法は、ただ幼児教育の一過程の遊びメソッドなのではなく、その後の人間形成につなげることを大きな目的とした教育メソッドでもあるからです。

具体的には本書のなかでおいおい述べていきますが、その概要を知っていただくために、第三者の客観的評価を先ずご紹介させていただきます。

一昨年(2017年)の暮れも押し迫る12月25日、私は東大の講堂で開かれた「失敗学会」の講師に招かれ、安田式遊具の普及に努めているエール(株)の居関達彦君とともに安田式遊具の話をさせていただきました。

そのご縁から昨年の5月、失敗学会の会長である畠村洋太郎先生(東京大学名誉教授、工学院大学教授、畠村創造工学研究所代表)をはじめ数名の方が、ちくみ幼稚園(埼玉県三郷市)を見学されました。それから間もなく、畠村先生から私にお礼のメールとともに長文の「安田式遊具実況見学印象記」を送っていただきました。その一部は次の通りです。「幼稚園とか保育園の時期が非常に大事だ。0~3才で体や脳の基本形ができ上っていく。

そして、3才位からの幼児期に最も必要になる要素が安田式遊具には盛り込まれており修学前の時期をこういう環境で育っていくのが非常に重要ではないかと思った。」畠村先生はかつて、絶滅した子供遊具の復活を目指して「危険学プロジェクト」というのを10年間されてきたそうです。その経験からの比較のうえでの高い評価だったので私はなおのこと嬉しかったのです。

もう一つ紹介したいのは、京都府内の公立保育園で導入された安田式遊具と指導法が、「いじめ」を止める側の子供を育てているという事例です。その公立保育園では園長先生の転勤があり、新たに就任した園長は幼児教育に携わったことがなかった人でしたので、保育内容は主任の先生に頼られました。安田先生の研究会で勉強された主任の先生は、安田式遊具を導入するチャンス到来と考えました。

園庭が狭いため子供たちに思い切り運動遊びをさせることができなかつたからです。安田先生に相談したところ、建物の2階から橋を架けるなど、柔軟な発想の総合遊具ができるようになりました。その場の条件により、建物まで遊び場として活用するというのが安田式遊具の発想です。

完成後、子供たちがあまり元気に遊ぶので、隣近所から「騒がしい」「静かにしろ」と苦情がありました。新園長の対応が素晴らしい、半年後にクレームがなくなりました。それから3年後、退任することになった園長先生は、卒業児が入学している近隣の小学校3校に挨拶に行かれました。すると、訪問先の校長先生が異口同音にこう言われたそうです。『園長先生、貴園ではどのような保育をされているのですか？ おたくの卒園児の子たちは、いじめをしない。反対にいじめを止める側にいます』と。卒園児をほめられるのは嬉しいのですが、ピンとこなかった園長先生は、帰園して、主任にこの話をされたところ、主任の先生は別に驚くことではないとばかりに、「園長先生、安田式遊具を入れてから、子供たちが熱中して遊ぶようになったからですよ」と。

園長先生が退任される時、安田先生と私を園に呼ばれ、感極まったように言われました。「60年間生きてきて、運よく安田式遊具に出会い、まさか遊具が子供をこんなにも変えるとは思いませんでした。私の人生の価値観を変える様な体験をさせて頂き、安田先生、ほんとうにありがとうございました」

私は、この園長先生の率直な言葉に感動しました。そして、いじめ問題の根本的解決は「これしかない」と思った瞬間であり、一生忘れられません。

安田祐治先生がこの遊具を開発したのは、体操選手や運動の万能選手を育てるためではありません。長年の教育現場での体験と研究により、「もともな脳」「まともな人間」を育てるには、幼児期の運動遊びがいちばんという教育的観点と信念からでした。

2013年、外遊び体育遊具協会は、一般社団法人から公益財団法人となりました。そして2017年10月には、安田式遊具とその指導法が、アメリカにおいて著作権を取得しました。惜しいかな、安田先生は、著作権取得の知らせがくる3ヵ月前、98歳で永眠されました。本書は、70余年に及ぶ安田先生の功績を讃えるとともに、一人でも多くの人に安田式遊具とその指導法について理解を深めていただきたいと願って発刊するものです。そして本書を先ず、感謝の思いをこめて安田祐治先生に捧げます。

2019年 春 吉川静雄

安田式体育遊び研究所所長 居関達彦

1. 安田式体育遊び指導法の原理原則

- ・習得のために必要とされる基本動作は反復練習や訓練ではなく、共感遊びに盛り込む
- ・簡単な遊びから高度な動きの遊びまでを段階的に発展させる
- ・指導者主導の遊びを子供達だけで楽しめるように展開する

2. 体育遊びで育む6つの力

共感力 → 模倣力 → 観察力 → 発見力 → 判断力 → 対応力

3. 心と体の力みをとる6つの動作【原野遊びと樹上遊び】

1. 走る [原野]
2. 転がる [原野]
3. ぶら下がる [樹上]
4. とび跳ねる [原野]
5. 渡る [樹上]
6. 登る [樹上]

4. 段階的体育遊び指導 “ホップ・ステップ・ジャンプ”

「何かが出来ないということは、それに繋がる何かの遊びが足りない」

段階的体育遊び指導“ホップ・ステップ・ジャンプ”は、出来ないことを訓練的に指導するのではなく、皆が出来る簡単な遊びから楽しく段階的に体育遊びを展開させる指導法です。

子供達が遊び方と楽しさを体感し、自らの工夫で遊びを発展させていくことが出来るようにならぬ。そのため指導の段階が即遊びの発展になるように、3つの遊びを選択・整理して3段階に繋がるように計画します。

[ホップ]

たやすく遊びこめる遊び 「やってみたい」「楽しい」

- ・日常の経験に近い遊び
- ・易しい方法と技能
- ・簡単なルール

[ステップ]

熱中して遊び続ける遊び 「出来そう」「もっとやりたい」

- ・自分達で段取りして遊ぶ
- ・自分達で工夫していく

[ジャンプ]

遊びを発展させる 「出来た」「もっと上手くなりたい」

- ・人数、遊具などの難化
- ・技能を高めようとする
- ・方法の複雑化

5. 安全能力を育む － 小さな危険を経験できる環境 －

安全能力とは、人を傷つけない力と、自分も傷つかない力です。

活発な遊びは多分に危険を伴いますが、危険性の全くない活動は楽しい遊びになりにくく、行う意味も小さくなります。子供達は、それぞれの発育や能力に相応した冒険や挑戦をして、小さな危険と小さな失敗をたくさん経験する必要があります。その営みこそが遊びであり、それによって安全能力も身につくのです。もちろん、不必要的危険は避け、事故を防ぎ、事故時には適切な処置が必要です。

- ・状況を察知し反応する力
- ・危険かどうかを判断する力
- ・危険を回避し、受け身をとれる身のこなし
- ・安全の規範意識が高まる経験

6. 安田式体育遊びサーキット

「心と体の力をとる6つの動作“走る・転がる・ぶら下がる・とび跳ねる・渡る・登る”」を盛り込んで、基本動作の習得から技能向上までを皆で段階的に楽しもう！

安田式体育遊びサーキットは、年齢・発達に応じて多様な動きをセット化して効果的に行います。子供達の運動量を豊富にし、心と体の力をとどめ、安全能力を向上させ、基本動作の習得を目的としています。サーキットを日常的に楽しむことで、基本動作の習得が技能向上に繋がるだけでなく、共感力・模倣力・観察力・発見力・判断力・対応力が刺激され、集団活動に必要な能力が育まれます。

■ 環境構成3つの原則(年齢・人数・広さに合わせて)

1. 全員で一斉に取り組める
2. 待ち時間が少ない
3. コースの選択が出来る(逆走禁止)

1. 回遊サーキット [運動量の確保・心と体の力をとる・共感力を育む]

子供達が待ち時間少なく簡単な動作を何度も繰り返し楽しめるように、用具や遊具を配置して行う基本的なサーキットです。全員で一斉に活動する中で、個々のペースでお友達をかわしたり、譲り合ったり、空いている場所を見つけて、自分の判断で進んでいきます。能力差に関係なく楽しめるのが特徴です。難しい技に挑戦するのではなく、全員が出来る簡単な動作を多様に組み合わせて、繰り返し楽しめるように構成します。短時間で豊富な運動量を確保し、心と体の力をとどめ、体力と安全能力を向上させます。

2. お引越しサーキット [観察力・発見力・技能向上]

グループに分かれて短時間ごとにテンポよく各種目のコーナーを巡っていくサーキットです。各種目のコーナーへの移動を「お引越し」と呼び、グループごとに一斉に移動します。

1つの種目を短時間、繰り返し楽しむことにより、回遊サーキットで培った基本動作が技能向上に繋がり、より巧みになります。コーナーをテンポよく順番に巡ることで、バランスよく多様な技能が向上し、短期間で体得できるようになります。苦手な動作の訓練に偏らず、多様な技能を同時に体感することで、相乗的・効果的に、より高度な運動が出来るようになります。

3. ゲームサーキット [遊戯化・達成維持・技能向上]

ジャンケンの勝ち負けやくじ引き、シッポ取りなどによって遊戯化して楽しむサーキットです。

回遊サーキットやお引越しサーキットの中で出来るようになった様々な動きや技をサーキットに取り入れ、遊戯性を高めることでマンネリ化を防ぎ、訓練的ではなく遊びとして日常的に楽しめます。

